

平成29年度 地域支援セミナー

テーマ「皆で切り開こう、障害福祉の未来～共生社会の実現をめざして～」

趣旨

誰もが幸せに生きる共生社会を目指す日本の「世界の幸せ度数ランキング」は、残念ながら52～53位を推移しています。上位3ヶ国は北欧3ヶ国（ノルウェー・デンマーク・スウェーデン）が常連国です。順位はともかくとして、その指標に注目すると、「GDP」「他者への寛容」「健康寿命」「頼れる相手がいる」「人生を選択できる自由」「汚職のない社会」の7つとなっています。

日本がめざす共生社会の実現はまだまだ歩きだしたばかりといえるでしょう。

本セミナーでは、「皆で切り開こう、障害福祉の未来～共生社会の実現をめざして～」をテーマに、新たな地域づくりや制度・報酬改定をめぐる大いに議論を深めたいと考えています。

また、2日目は、より具体的な支援の質について活発に議論したいと考えています。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

開催日 平成29年11月20日（月）～21日（火）

会場 新横浜国際ホテル 南館（神奈川県横浜市港北区新横浜3-18-1）

主催 公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 地域支援部会

対象 障害児・者の地域支援に携わる関係機関職員等

定員 400名

参加費 セミナー：〈会員〉11,000円／〈非会員〉13,000円 交流会：7,000円（任意参加）

【日程】

第1日目【11月20日（月）／全体会】

12:00	12:30	12:40	13:50	15:10	15:30	17:00	18:00	19:30
受付	開会式	行政説明	講演	休憩	徹底討論	移動	交流会	

第2日目【11月21日（火）／分科会】

9:00 12:00

- 第1分科会：「考えてみよう！暮らしの中の意思決定支援」
- 第2分科会：「どんなに障害が重くても、高齢になっても地域で暮らし続けるために」
- 第3分科会：「触法障害者や軽度障害者への支援からみてきたこと」

※諸事情によりプログラム・登壇者を変更する場合があります。

第1日目【11/20(月)】

I 行政説明(12:40~13:50)

『障害福祉施策の動向』

富原 博 氏(厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域生活支援推進室 室長補佐)

II 講演(13:50~15:10)

『これからの地域福祉を考える』 ~「必要からの地域福祉」から「理想への地域福祉」へ~

高齢であろうが、障害があろうが、その人らしい生活、その人らしい生き方というものがあるはず。その実現を目指す。実現の可能性をみんなで考えることができる環境(=地域)があることが「理想への地域福祉」です。

小野 達也 氏(大阪府立大学 人間社会システム科学研究科・教育福祉学類 教授)

プロフィール

千葉県銚子市出身。ボランティア推進機関、市民団体での活動後、30代半ばで大学院において学び、熊本学園大学を経て、2005年に大阪府立大学へ。専門は地域福祉、ボランティア活動、NPO論。住民、市民の側からの地域福祉の構築を目指す。研究テーマは、増進型地域福祉の追究、地域社会の質(ソーシャルクオリティ)に関する研究、民間福祉活動の研究。

III 徹底討論(15:30~17:00)

『皆で切り開こう障害福祉の未来』 ~障害者総合支援法の改正と報酬単価の改定をめぐって~

論 者

久保 厚子 氏(全国手をつなぐ育成会連合会 会長)

荒井 隆一 氏(障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会 副代表)

河原 雄一 氏(日本知的障害者福祉協会 政策委員会 委員長)

進 行

山崎千恵美 氏(日本知的障害者福祉協会 地域支援部会 部会長)

IV 交流会〈任意参加〉(18:00~)

第2日目【11/21(火)】 第1分科会

テーマ：『考えてみよう！暮らしの中の意思決定支援』

利用者の思いや願いにそった地域での暮らしを実現するためには、日々の生活の中での利用者自身の意思決定が必要不可欠です。

近年、「意思決定支援」という言葉は、障害者総合支援法をはじめ多くの場面で目にするようになりましたが、具体的な説明を求められると「イメージとしては解るが明確に答えられない。」というのが大半ではないでしょうか。

そこで意思決定支援について、それぞれの現場や状況に応じた対応を詳しく解説し、グループワークをとおして暮らしの中での意思決定支援を可視化し、暮らしの質の向上と意思決定支援の関連性を探ってみたいと思います。

講演 『暮らしの中での意思決定支援』

服部 敏寛 氏（山梨県：サポートセンターハロハロー番館 所長／知的障害者の意思決定支援への取組に関する委員会 委員）

グループ討議

講師

服部 敏寛 氏（山梨県：サポートセンターハロハロー番館 所長／知的障害者の意思決定支援への取組に関する委員会 委員）

戸田 健一 氏（北海道：千歳市障がい者総合支援センターChip 管理者）

進行

石本 伸也 氏（香川県：もえぎの里支援センター／地域支援部会四国地区代表）

第2日目【11/21(火)】 第2分科会

テーマ：『どんなに障害が重くても、高齢になっても地域で暮らし続けるために』

超高齢化に向かっている日本では、障害ある人達も同様に高齢化・重度化が進んでいます。そのために必要な支援の内容や生活スタイルも変わっていく必要があります。先進的な実践を通して、どんなに障害が重くても、高齢になっても住み慣れた街に暮らし続けるために、どのような方策が必要なのか考えてみたいと思います。

講演Ⅰ 『どんなに障害が重くても地域で普通の暮らしを』（仮）

中西 昌哉 氏（京都府：障がい者地域共生拠点イマジン・ベテスダの家 統括管理者／地域支援部会近畿地区代表）

講演Ⅱ 『生きることへの支援～一人ひとりを大切に～』（仮）

大垣 勲男 氏（北海道：社会福祉法人伊達コスモス21 統括事業管理者・サポートハンズこころ所長）

意見交換

助言者

得田 和明 氏（岩手県：居宅介護支援センターやすらぎ／地域支援部会東北地区代表）

進行

渡部 等 氏（愛知県：愛光園地域居住サポートセンター／地域支援部会 副部会長）

第2日目【11/21(火)】 第3分科会

テーマ：『触法障害者や軽度障害者への支援からみてきたこと』

適切な支援を受けられずに罪を繰り返してしまう実態に法務省・厚生労働省等の関係機関がグループホーム等の福祉サービスでの受け入れを推進しています。生活の場所として、グループホーム、宿泊型自立訓練事業等が、独居生活にはホームヘルプ等の居宅介護事業所が中心になり地域生活を支えてきました。しかし、支援をしてきた中で再び罪を犯し刑務所に戻ってしまう人、支援を拒否しホームを飛び出してしまう人等、様々な問題が発生しています。

そこで、これまでの取り組みから見えてきたこと、触法障害者の特徴とその支援の方法・あり方を皆様と一緒に考えてみたいと思います。

パネルディスカッション

パネリスト

木内 英雄 氏（埼玉県：埼玉県地域生活定着センター センター長）

大橋 冴 氏（埼玉県：一般社団法人 とまりぎ 代表理事）

青山 恵子 氏（北海道：さっぽろ地域生活支援センター 所長）

進 行

末田 友子 氏（愛知県：ゆたか通勤寮／地域支援部会東海地区代表）

アクセス

研修会会場

新横浜国際ホテル(南館)

所在地

神奈川県横浜市港北区新横浜3-18-1

交 通

- JR線・新幹線「新横浜駅」北口より徒歩約3分
- 横浜市営地下鉄「新横浜駅」7番出口より徒歩約1分
- 羽田空港からのご案内

京急空港リムジンバス
羽田空港 → 新横浜駅
所要時間 約40分 (下車徒歩約2分)

【大会内容に関するお問い合わせ先（大会事務局）】

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会事務局

(担当／山本・三浦)

〒105 -0013 東京都港区浜松町2-7-19 KDX浜松町ビル6階

TEL:03 -3438 -0466 FAX:03 -3431 -1803

【お申込みにに関するお問い合わせ先】

名鉄観光サービス株式会社 新霞が関支店

(担当／下枝・山邊)

観光庁長官登録旅行業第55号 一般社団法人日本旅行業協会正会員

〒100 -0013 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル ロビー階

TEL:03 -3595 -1121 FAX:03 -3595 -1119

総合旅行業務取扱管理者:岸浪 純 営業時間 9:30~17:30(※土・日・祝日 休業日)